

## 総合科学部 日本語教育関連授業

国際センターの日本語教育担当教員が総合科学部の日本語教育に関する専門科目を担当している。

時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1・2				日本語教育演習（前期）	
3・4		日本語教育方法論 Ⅰ（前期） 日本語教育方法論 Ⅱ（後期）			
5・6					
7・8					
9・10					

### 日本語教育方法論Ⅰ 前期 三隅友子

- ・ 受講人数： 25名（留学生5名・アメリカ・中国・韓国）
- ・ 目標：
 

日本語教育の現状を知ること。特に国内の日本語教育の様子とその変化をさまざまな資料をもとに確認する。また授業運営に協同学習の技法を組み込み、体験学習を目指した。
- ・ 実施内容：
 

今期は、受講生の留学生5名（アメリカ1名、韓国1名、中国3名）に、学び手の視点から情報を多く提供してもらった。基本的にはペア及びグループでの活動を中心にクラス運営を行った。6月には外部講師の講演会を聞くことから日本語とコミュニケーションに関する考察を行い、7月には徳島県内で働くインドシア人介護士5名との交流会を通して、地域で日本語を必要とする人に直接インタビューする活動も行った。

回	内容
1	初回 受講生紹介・グループ作り
2	国内の日本語教育概要
3	外国人介護士 資料読解 新聞
4	外国人介護士 資料読解 調査報告
5	外国人介護士ビデオ①

6	外国人介護士ビデオ②
7	国内の日本語教育
8	マンガ①「話さぬ父親」
9	マンガ② 日本語を必要とする人
10	地域の日本語教育（尾崎・足立論文）
11	講演会 (iPhone エバンジェリス中山氏)
12	講演会振り返り・地域の日本語教育
13	ことばのひろば紹介・7/13 準備
14	インドネシア人介護士との交流会
15	試験と振り返り

## 日本語教育方法論Ⅱ後期

大石寧子

- ・ 受講人数： 9名（内4名留学生）
- ・ 目標：日本語教育の授業がいかに関係していかを開講前・開講中・終了時と大きく3つに分け、全体像を掴ませる。
- ・ 実施内容：
  - i. 開講前：
 

レディネス調査、ニーズ調査を中心にグループに分かれ、各調査に関し、必要性、調査項目等ディスカッションしなら案を作成し評価しあう。シラバスリストも課を限ってだが作成する。
  - ii. 開講中：
 

導入・文法整理・練習・会話・タスク・宿題への流れを知り、それぞれどのような方法や手立てがあるか、グループで考え、タスク、宿題案も作成する。また日本語を教えるということ、運用力をつけるとは、についても考える。
  - iii. 終了時：
 

評価の種類と特徴、成績表、アンケート、フォローアップについて考える。

留学生が参加していたことで、随所で実際の学習情報が得られた。また秋期日本語研修コースが同時期に走っていたので、屋外学習を支援したり機会あるごとに触れられたのも日本語教育がどういうものかの実感を得る助けとなった。

日本語教育演習・日本語教材演習 前期 三隅友子

- ・ 受講人数： 15名（外国人留学生5名・中国、韓国、アメリカ）
- ・ 目標：  
日本語学習がどのように進められ、教育という枠組みの中で教師がどのような働きかけができるのかを体験することを目標とした。その中でも本実習では次の三つに焦点をあてた。①日本語を学ぶ人たちの情報②日本語の教材に関する知識③学習者が日本語を習得していく課程
- ・ 実施内容：  
4月に来日した日本語学習者2名（初級）に対して、受講生がグループを作って曜日ごとに日本語学習を支援するプロジェクトワークを実施した（吉備真備プロジェクト）。教材は「みんなの日本語（スリーエーネットワーク）Ⅰ・Ⅱ」「聴解タスク」「標準問題集」及び自主作成教材「ふたりの日本語」を使用。

本授業に関しては平成22年度全学FD大学教育カンファレンス in 徳島（2011年1月21日）にて「実習教育を協同学習の観点から捉え直すー日本語教育演習・日本語教育教材研究の実践から～」のテーマで発表を行った。